

## 第6回 縄文楽検定（初級編） 解答集

問題	解答	問題	解答	問題	解答
1	c	21	b	41	c
2	b	22	c	42	a
3	b	23	c	43	d
4	c	24	c	44	a
5	c	25	a	45	d
6	b	26	a	46	a
7	d	27	d	47	b
8	c	28	c	48	a
9	d	29	d	49	b
10	b	30	c	50	—
11	c	31	b		
12	c	32	a		
13	b	33	b・(c)		
14	b	34	d		
15	d	35	b		
16	b	36	a		
17	d	37	b		
18	a	38	(b)・c		
19	c	39	c		
20	d	40	d		

## (解説)

出題に用いたテキストとその略号は、以下のとおりです。

①<縄文楽検定テキスト>「縄文文化と火焰土器」(2008)＝「テキストⅠ」

②新潟県立歴史博物館編「火焰土器の国新潟」(新潟日報事業社 2009)＝「火焰」

③<縄文楽検定テキストⅡ>「信濃川火焰街道 縄文の旅」(2011)＝「テキストⅡ」

なお、問題文中、「火炎土器」「火焰土器」「火焰型土器」「火炎土器様式」などの用語が出てきますが、すべて使い分けをしています。

くわしくは、テキストⅠの9ページなどをごらんください。

それでは、主な問題とその解答について簡単に解説します。

問4～6 「火焰土器」とははじめて発見された唯一の個体に与えられた愛称ですので、この世にひとつしかありません。近藤篤三郎さんが長岡市関原町の馬高遺跡で発見し、世に出たものです(テキストⅠ 5ページなど)

問14 土偶は、一般的には乳房や大きなお尻が表現されますので、女性をあらわしたものと考えられています。ただし、当協議会顧問の小林達雄先生は、そういった考えにとらわれることに疑問を投げかけておられます(火焰 8ページ～)

問23 この中では「石錐」と「石錘」がどちらも「せきすい」でまぎらわしいですね。「錐」は孔をあけるための”きり”、「錘」は”おもり”です。魚とりの網につけるおもりとして使われたという説が有力なのが「石錘」のほうです。もちろん研究者の中には異論もあります（テキストⅠ 22ページ）。

問33 「火焰」45ページには、新潟県内に170カ所余りとあります。ただし、設問に「新潟県内」という限定をしていなかったで、「テキストⅠ」13ページの「東日本の200を超える遺跡で確認されてい」という記述との間で迷ってしまった方もいらっしゃるでしょう。ここはb、cともに得点としました。ただし230遺跡は少し多すぎる数字です。

問38 縄文時代にも土器による塩作りを行っていましたから、ここはcの「塩」が正解ですが、魚醤との関連からbの「しょう油」と迷った方もおられるでしょう。「しょう油」は大豆から作られるものですから、「味噌」などと同じく縄文時代にはないものですが、第4回の検定でも得点として認めていましたので、bとした方にも今回は得点をさしあげます。

問40 dのナウマンゾウ・オオツノシカは、縄文時代の前の「旧石器時代」に日本にもいた大型の哺乳類です。縄文時代まで残ることなく絶滅しました（火焰 90～97ページ）

問42 竪穴住居をつくるため穴を掘ったり、環状列石を構築したりすることは規模は小さいながらまさに土木工事といえるでしょう（火焰 104ページ）

問47 十日町市笹山遺跡でのイベントはbの「笹山じょうもん市」です。「花ふるフェスタ」は6月に新潟市秋葉区の里山で開催、史跡古津八幡山遺跡も参加しています。「焰祭」は津南町の農と縄文の体験実習館「なじょもん」でのイベント（9月）、縄文サミットは当協議会が年1回開く総会の名称です（テキストⅠ 29ページ）

問50 この問題には、まだ定説はありません。みなさんの想像力で自由に記入いただいた解答、すべて正解といたします。